



復刊第79号
題字吉岡弥生

会長就任に当って



会長 三神 美和

空梅雨で、連日三十度を越す猛暑がつづき、水源地の異常渇水が伝えられる六月二十三日の午後、新執行部の初顔合せが行われました。

変りばえのない顔が多く、新顔は、五名に過ぎない理事会も、新しい決意をもって、新年度に立ち向う

気迫が会全体に漲っておりまして。この気迫はどこから出ているかを考えて見ました。

立候補者が定員以内であった役員選挙は、いまだ経験したことはありませんでした。このことは、日本女医会がいかに敬遠されたかを物語るものといえましょう。その意味で、

立候補された方々は、会のために何か役立ちたいと思う方であり、日本女医会を愛する方であると思えます。

立候補者がそのまま、新役員とならなりましたので、新執行部は、本会を

よりよくしたいと思う方々の集りと申せましょう。

新理事会が、希に見る協力と気迫に充ちていたことは、自から頷かれるのであります。

私は立候補の意志は初めはありませんでした。

私の立候補にさぐりを入れる人、勧告をする人など、さまざまの人の心の動きを感じておりました。しかし私は日本女医会を誰よりも愛するものであります。立候補者の少ない日本女医会を見るに忍びず、すててはおかれずと、捨て身の覚悟で立候補しました。

現在の不協和音の充ちた日本女医会に協和音を取り戻したいと思ひ、最後に立候補を決意したのであります。

はからずも、また会長に選出され

ましたことは、身に余る光栄でございますが、その任務の重いことを痛感するのであります。

新執行部に対して、全会員がその言行をきびしく注視していると思ひます。このきびしい目が温かい目になるように念じ、またそうなるよう努力したいと思ひます。今後三年の間に全会員、心を合せて真の日本の女医の代表団体として、国の内外に誇れるものになりたいと存じます。

先日の理事会の議題に「新執行部のあり方」が出され討議されました。会員の方々の信頼と協力を得るためには、まず理事会が襟を正すことが必要であり、理事の一人一人が胸襟を開き、意見を出し合つて、一点の蟠りもない理事会にしなければならぬ、執行部内に派閥や暗躍などあつては、会の統一は出来ない。執行部の纏まりが最も大切なことであることを一同再認識し、十分な合意に達したのであります。

今後三年間この体制と心組んで新執行部は、本会の平和と発展のために盡力することになりましたので、何とぞ全員の皆様もよろしくご協力の程お願い申し上げます。旗手としての私は、この執行部と共に、会員の皆様と共に、会を正しく、平和に発展させる様努力する覚悟でございますので、よろしくご助言、ご援助の程お願い申し上げます。

平和な会を取り戻したい、これは、最も切実な私の願ひであり、目的であります。昭和四十五年開かれた方

日本女医会誌(第七十九号)昭和五十四年七月二十五日

目次

会長就任に当って	三神 美和	1
副会長に就任して		2
監事就任の挨拶		2
各部より		
庶務部		2
会計部		3
事業部		3
学術部		4
広報部		4
渉外部		4
吉岡弥生賞を授賞して	平野 京子	5
日本女医会優功賞を授賞して	中川 富士	5
医学部長就任にあたって	柴田 洋子	6
日本公衆衛生協会会長賞授賞	愛知県支部	6
臨時評議員会議事録		6
臨時総会議事録		7
定時評議員会議事録		8
定時総会議事録		8
Circular Letter No. 55	佐野アヤ子	9
理事会議事録(三月・四月・六月)		10
会員動静・編集後記		12

努力する覚悟であります。

日本女医会の発展も大きな課題であります。会員数を増すことは発展の第一要素であります。目下新しく女医となられた方々に入会をお願いしております。従来加入のなかつた官公私立医大の出身者も加入の傾向があります。会としてまことに喜ばしいことであります。

フレッシュな眼で本会を見ていただくことは、また本会の発展につながることを思います。

新会員を獲得するためには、本会が魅力あるものでなければなりません。その魅力は会員にとってプラスになる何かを持つことだと思います。従来からの事業である吉岡弥生賞、年金制度、学術講演会など、何れも会員にとって有益なものとなります。

この上さらに、若い会員に対して研究助成制度を設けたいと思います。それには、国際女医学会記念事業基金の運用を明確にし、その中から助成を行うようにしたいと思います。

今年度に着手したいことは、学術面の拡大であります。日本女医史の続編刊行に手をつけること、純粹な学術刊行物を出すこと、日進月歩の医療に対応するために会員を対象とした研修会を開催すること、などいろいろあります。学術部理事の活躍を期待しております。

次に私は、本年度提案したいのは、定款施行細則の見直しであります。前年度はからずも定款改正案は否決されましたが、現在の選挙法には改善すべき点のあることは、会員の多くが認めるところでありますので、よりよい方法を考え、施行細則の是正を考慮したいと思います。

素直に会員の皆様に納得される細則の改正がなされるよう希っております。

東京サミットも終り、世界的に石油対策が決定され、インフレーション

の危険が迫っております時、私共も安閑として自分の殻の中に閉じこもってはおられません。この世界の動きはすぐに私共にも身近に感じられる今の世の中です。こうした時であるからこそ、お互いに手をとり合って進んで行かねばならないと思います。本会が一体となつて、医学のために、地域のために貢献出来まよう心から念じて就任の言葉といたします。

総会の宿泊確保に協力のすすめ

来春の日本女医学会総会は、群馬県支部が、おひき受け下さいました。ご承知の通り観光地の五月は宿の確保も意のままにならないので、会員諸氏のご気分のよいご旅行を願つてご出席が二百名に達するならば宿を貸切りにしたい意向のあることをうかがいました。

つきましてやがて第一報がお手元に届きましたならば、こそつて総会にご出席下さるよう、前もつてお勧めいたします次第です。

庶務部 (文責 久保田)



副会長に就任して



福永ひろ子 柳瀬 路子 山崎 倫子

この度、私ども三名が副会長に選任されました。

これからの任期三年間、一生懸命務めてまいる所存でございますので、よろしくご鞭達、ご協力の程お願い申し上げます。

日本女医学会も社団法人になつて満十年を迎えようとしております。

この間、万国博における医療奉仕の大事業も会員諸姉の全面的ご協力によつて成功裡になしとげてきました。また、国際女医学会議への参加者の著しい増加等、本会が着実に成長していることは誠に同慶のいたりです。

しかし、その反面話し合いの不足や情報伝達の不手際からいろいろの問題が起つていことも事実です。これからの三年間は日本女医学会にとつて非常に重大なときと思われまします。私どもは心して「和」をモットーに、まず会員相互間の信頼と協調を得るよう務め、日本女医学会の一層

の発展に全力を尽くしたいと考えております。

(文責 山崎)

監事就任の挨拶



今野 信子 添田 百枝 山口 三重

今年は無投票で、私ども三名は監事に就任いたしました。

日本における国際女医学会を契機として、あまりにも華やかに、立派に、印象的に整然と行われました。この会議は将来全世界の女医達の間でなつかしく語りつがれて行くことでしょう。

このような会議を境として、日本女医学会は自らの底力をみせつけられた思いだったことでしょう。その後遺症として、ひとにぎりの会員および長病を患う少数の会員によつて最高学府に学んだとは思えぬ行動のあったことはいなめない。このわかまかりからぬけだして、日本女医学会は少くとも、楽しい集いに、お互いを見つめ合い、学び合つて、世界にも有数の女医学会に発展させて行き

各部より

庶務部



久保田くら 松岡 宏子 尾中 妙子 清水 友代 藤田 親代

たいものです。そのためには私どもは、厳正で公正に計つて行きたいと存じます。

(文責 添田)

この度、また庶務担当を仰せつかりました。

このお役目をたび重ねておりますのに、「私はまだ不慣れです」と申し上げねばなりません。

庶務の仕事は多岐に涉つておりますので、予想だもしない事に遭遇し、早急な処理にせまられ、後日「それ、まずいぞ」という類のお叱りを頂戴

することもございますが、当事者でない限りご理解願えない場合もあつて、庶務は、なかなかなのでございます。

しかし、会の円滑な運営の下働きとあれば、平常はもちろんいささかのハプニングにもめげず、中道を誤りなく歩む努力をいたす覚悟であります。

皆様のご叱正を頂戴しながら、一心同力を合わせ任務遂行を果させていただきますたく、よろしくお願い申し上げます。

(文責 久保田)

会計部



佐藤千代子



守安 素女



川口 正子



連井 敏子



森川みどり

会費/会費/会費!

会計部担当となりました私どもに

とりまして、その日から瞬時も脳裏から離れなくなった言葉です。

諸物価高騰の折から、女医学会の財政逼迫も当然のことながら、少しでも会員の皆様に負担をかけることは回避したいと、会費を値上げすることなく据置のまま予算が立てられました。

しかし会費が円滑に、はいりませんと破綻は必至です。女医学会は、個人個人のご意志で入会されました任意の団体であり、会費納入の義務もまた当然個人にあるものと考えます。

いま、私どもの心を最も暗くいたしておりますことは、昨年から引き続く個人のあることでございます。会費が納入されなければ、早晩、会の運営に破綻をきたします。その最悪の事態を避ける第一の手段として諸経費の節約は、当然のことながら、本年度から理事の旅費支給を停止しております。診療を一日犠牲にして理事会にかけつける理事の旅費は、現在自弁です。皆様に代って会の運営を執行する責任上、理事の方々に我慢していただくよりいたし方ありません。しかし、この事態が長びけば当然、いろいろな形で全会員にご迷惑をかけることとなりますことを憂慮いたします。

学校も年令も超越し、女医学会であることの誇りで結ばれている会であり、会員、即友人でございます。どうぞこの際、会費をご納入いただき、友人にご迷惑を及ぼすよう

な手段は、お許しいただきたいと切に願うものでございます。その代り、執行部に対するいかなる厳しいご批判も、それが会員多数のご意志であれば、謙虚に受ける覚悟でございます。

新執行部といたしまして、全会員のためにをモットーに、円滑な運営に心を合わせて新しく出発をと、第一回の理事会で会長以下誓った次第でございます。

ぜひ今後の理事会の歩みを厳しい眼で見てくださいたいと存じます。会員の皆様、何とぞ会費をご完納くださいますよう唯々お願い申し上げます。

(文責 佐藤)

事業部



稲葉 幸子



丸山 芙美



川島富久子



斉藤イサラ



野口登志子

東京サミット及びオベック値上げと世界を沸かしたあと、国内では消費物価の値上げという不安で落ち付かぬ昨今です。

全国各地の先生方には、各分野でお忙しくご活躍の毎日のこととお察しいたします。

さて、六月の初回理事会におきまして各部の担当が決定しました。そこで私達表記五名が事業部を受け持つ事になりました。何分始めての部署でもあり、しかも前期においてはご立派な業績を残されておられますので、その後、私たちがその責を遂行いたすべく全員懸命にとりくんでまいりたいと存じます。過日初めての部員顔合せをいたしたばかりなのですが、まずは基本的に昭和五十四年度の事業計画案にそつてその一つ一つを再検討し実行してまいる所存です。なお女医の実態調査は前委員が残務をなさいます。

今後部員は、へき地診療、公衆衛生、福祉助成などを資金が許す範囲でもっと拡大して行きたいと思えます。順次会合を重ねて可能な限り実行してまいりたく地道ながらしっかりと取り組んでまいる所存です。

ルーベンタンは川島理事が今までどおり労をとって下さいます。

事業部の事業を実施する上には各部との連絡が必要となることもあり、円滑にそして円滑に実行するための連絡協議機関が欲しいものです。

最後に大きな希望は独立した日本

女医会会館が実現するよう希望いたします。会員相互の親睦と融和は日本女医会発展の基盤かと存じます。私達部員一同チームワークを取り一丸となつて諸先生の愛情あるアドバイスの下に重責を果したい所存です。なお、今回初登場された野口、斉藤両理事の抱負を紹介いたします。

(文責 稲葉・丸山)

●今回日本女医学会の理事に就任、事業部を担当させていただく事になった。幸い丸山先生、稲葉先生、川島先生、斉藤先生と一緒なので、和の精神をもって、討論し理解し合い結論を出しました、ご指導いただいたそれからじつくりと事業部の仕事に取り組んで行きたいと思つている。

ある地域での会費納入をポイント……についてもそれには何かが根底にあるのだろうか。と考へ原因を探求しなければいけないのではないかと。さもなければ懸命にいくら張り切っても事業部の仕事はスムーズには行かないのではないかと考へている。

(野口記) ●事業部を担当するに当つて、前任諸先生のお力添えをいただきながら微力ながら努力をして行きたいと存じます。全国会員の皆様方よりのご意見なりご教示いただきたくよろしくお願い申し上げます。

(斉藤記)

学術部



小俣喜久子



大原 一枝



野呂 幸枝



藤井 侑子

空梅雨続きの東京で、ようやく降りだした恵みの雨も役に立たず給水制限が実行されようとしております。日本女医学会の諸先生には、ご機嫌ようお過ごしでございませうかおつかいがい申し上げます。

会員の先生方のご協力で第二十四回総会も平穩裡に終り、役員改選後、六月二十三日初の常任理事会、理事会が開催され各部の担当理事が決まりました。

私も担当いたしました学術部は三年前に新設されたもので、初代常任理事の森川、稲葉両先生方によって研修会を発売にしていただき吉岡賞授賞の先生方にも論文発表の機会を設けて下さいました。

また研究助成に関しても細心の配慮のもとにまず各医科系大学における会員の研究業績、学位授与さ

れた会員数などについてもよく把握して、ようやく学術部は前進をはじめたところでしたが、今回の役員の変更にもない私どもが交代することになりました。しかしまだ担当理事だけの会を持つ機会もありません。このたび広報部より学術部としてご挨拶を申しのべるようご指示がありましたので、当初出席していただきながら一言申し上げます。

学術部としての任期三カ年をどういたすべきかの具体的な案は、次回に譲らせていただくことにして、この一年間の方針を至急に立てねばならないと存じ会員の先生方にお願ひ申し上げます。

まず吉岡弥生賞に該当する学術部門及び社会に貢献した会員をご推薦していただくこととございます。

次いで研究助成でございますが、各大学や研究機関において研究しておられる会員の方に研究費の助成をすることにしておりますので広く会員の先生方のご推薦をお願い申し上げます。候補者の多少にかかわらず審査会において審査の上決めさせていただきます。

これらの申請は毎年十二月末日を切日といたしますので何とぞ会員諸先生には優秀な候補者をご推挙下さいますようお願い申し上げます。

また、研修会を年一回以上開催いたす予定でございますが、先にのべました吉岡弥生賞授賞者の論文発表のほかには会員の方々のご希望にそつ

て専門的な学問、幅広い知識を持つておられる学者、文化人をとわず各分野の方の中から演者をお願いしたいと存じます。なお研修会の場所は全国の会員の一人でも多くのご参加を願ひまた会員同志の親睦を計る上にも東京のみでなく各地支部に会場を移して行われるのも一法ではないかと存じます。もちろん学術部一同の再検討と理事会のご賛同を得て実行させていただきます。何とぞ会員諸先生のご協力と一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(文責 小俣)

広報部



野沢 良美



八木 貞子



川那部喜美子



山本 杉

緑も美しい初夏を迎えました。若々しい活動的な新進気鋭の新理事を含め、新しい執行部が誕生しました。わが広報部は、満面笑をたたえて

諸事に対処される穏和な野沢先生、また日本女医学会副会長として長年ご活躍された川那部先生が、今回は、若い世代に副会長を譲られて、広報でご活躍くださることはこの上なく心強く、またそれに加えて経験豊かな山本先生というメンバーで構成されました。不肖私も今回常任理事の末席に選ばれましたことを厚くお礼申し上げます。諸先生ともども広報の使命を全うすべく微力ながら努力したいと存じます。

広報の最大の事業の一つとして、一月、四月、七月、十月の一年に四回発行される会誌の企画編集があります。会誌は会員のためにあり、会員の声の広場として、内容豊かな意義深い会誌となるよう、さらにまた支部会員と本部との太いパイプともなるよう企画編集していきたいと新広報部は張切っております。

会員の皆様、なにとぞお気軽に何なりとご投稿いただきまして充実した会誌になるようご協力くださいますことを、切におねがい申し上げます。

新しい顔ぶれを加えての会長、副会長会議も発足し、第一回の理事会が開かれましたが、今回はその活気漲る各部の紹介と抱負をお知らせすることを第一として企画されました。次回はより斬新な姿でお目にかかることと存じますのでなにとぞご期待ください。

(文責 八木)

渉外部



竹内 静香



佐野アヤ子



鈴木 文子



マッキンストリ 千枝子



平瀬 文子

窓を開けて

この度は、渉外という大きな部屋を与えられました。渉外部一同仲良く任務を遂行していきたいと存じますのでよろしくお願ひ申し上げます。

今年度の事業計画案として国際交流があげられておりますので従来通り外国会員との交流はもとより広く国際的な立場に立つて理解を深め、また一方国内においても他の会との交流をはかっていきたいと思ひます。

ぜひ会員諸先生方のご支援とご協力をお願いいたします。この際渉外の部屋の窓を大きく開きお呼びかけいたします。たとえば、外国会員が来日された折などは出来る限りお知らせ

せいたしますので、大勢の先生方のご参加をお待ち申し上げます。
ふれ合うことよってこの渉外の目的のひとつも達せられると思ひます。

The Best is yet to be.

皆なで頑張つてまいりましょう。何とぞよろしく願ひいたします。
(文責 竹内)

吉岡弥生賞を授賞して

東京都新宿区 平野 京子



この度は、日本女医学会吉岡弥生賞をいただき、誠に光榮に存じます。

昭和十九年東京女子医専を卒業、戦後の混乱期を内科一般を学びつつ家庭育児とめまぐるしく過ごし、昭和二十七年かねてからの希望の皮膚科を専攻したく、日大皮膚科三浦教室へ入局しました。恩師三浦修教授は、東北大学を出られた皮膚科学会の権威者で数多くの教室員をもたれ、当時ただ一人の女性として門下に入り、昭和四十七年東京女子医大に赴任するまで、ひたすら歳月をわすれて勉強してまいりました。私のアレルギー、免疫関係の仕事は、昭和三十三年「アレルギー性皮膚疾患の際の補体の消長」という論文にはじまりま

す。

その後、アトピー性皮膚炎、ハウスダスト、帯状疱疹の免疫機序などを臨床のかたわら手がけているうちに、ここ十数年、免疫学は急速な進展をとげ、内科的疾患でも、PPD、PHA、DNCEBなどの皮膚反応は、生体の免疫学的防禦機構の指標としてルーチン化されてまいりまして、皮膚科医として皮膚を場とする免疫反応の重要性を痛感してきました。

昭和五十二年「皮膚遊出細胞の免疫学的検索」のテーマのもとに、学内吉岡研究奨励金を拝受しまして各種実験をしてまいりました。その結果、アレルギー性皮膚疾患の際の皮膚遊出好酸球は、その「Type」により時間的出現率を異にすること、皮膚遊出単核球の性状は血中単球に近似であり、いわゆる exudate macrophage の一群であること、macrophage が異物を喰食する際には、特種な免疫グロブリンで coat される事が必要であり、それには IgG より IgM の方がより効果的である

事などがわかってきました。

これからも検索したいことは種々ありますが、私ども臨床家は、基礎教室の様な充実した設備に乏しく、また時間的、人員的にも不足であります。しかし今後とも自分なりに努力して勉強して行くつもりであります。いま、吉岡弥生先生の胸像を前に

日本女医学会優功賞を授賞して

東京都大田区 中川 富士



昭和五十四年五月二十日の日本女医学会総会において、思いがけなく日本女医学会優功賞をいただき、三十一

年間の日本女医学会役員引退の花道をお作り下さいました会長先生をはじめ、理事、評議員及び総会にご出席の諸先生方のご厚情に対し、厚くお礼申し上げます。

昭和二十三年の春、日本女医学会再発足の準備会を開くので、至誠会会員だけでなく、鶴風会からも委員を出して下さいと母校にご連絡をいただいて、私が選ばれ、至誠会本部にまいりました。

して、学生時代の先生のご慈顔を思いうかべ身のひきしまる思いをいたしております。この度の榮譽は、今日までご指導下さいました先輩の諸先生方、友人達の協力、そして家族の理解のたまものと存じており、紙上より厚くお礼申し上げます。

当時の吉岡弥生先生は、お元気で、いつもにこにここと皆の意見を聞いておられました。その少し前に、国際女医学会会長のリード先生が、アメリカから来日されて、日本女医学会も国際女医学会に加入するようにと勧誘に來られました。吉岡先生は、まず日本女医学会をまとめなければならぬので、その準備会を足しますと挨拶されました。

また、たびたびお逢いして今でもなつかしくお名前を記憶しております。方々は、多川先生、杉田先生、松山先生、福田先生、吉岡房子先生、竹内茂代先生、佐藤やい先生、大村ひさる先生等です。(大村先生は、現在名誉会員で、ご健在)

会に加入するようにと来日されましたときは、上野の精養軒に百名近い会員が集まり歓迎会を開催する事ができました。その時にも吉岡弥生先生はお元気で、宿舎の帝國ホテルにリード先生を訪れたりなさいました。それからは、本腰で日本全国に支部作りをはじめました。そして昭和二十九年には、一応全国に支部を持つ日本女医学会が発足いたしました。その後、日比谷公園内の松本楼で、二回、日本女医学会総会を開催しましたが、火災で松本楼が焼失してからは、東京女子医大講堂が、主として総会会場となりました。私が日本女医学会に通いはじめて十年目の昭和三十三年に、日本も国際女医学会加入国となりました次第です。

昔の思い出の一端をつづりつつ、日本女医学会再発足に情熱をそそがれて故人になられた方々のご冥福をお祈りして、お礼の言葉にかえさせていただきます。
(前日本女医学会常任理事)

名簿発行について

名簿は役員改選の年、三年に一回発行されます。

住所表示、学位有無、電話番号の変更は、八月三十一日まで日本女医学会事務局にハガキでご連絡下さい。発行予定は十月下旬です。

財団法人日本公衆衛生 協会長賞授賞

愛知県支部長 森川みどり

さる六月十四日、愛知県勤労会館において開催された第十二回全国保健衛生大会(参加者、北海道より沖縄にいたる関係団体員八千五百名)にて、日本女医学会愛知県支部が十年余にわたって継続している「婦人の子供の健康相談」事業を表彰して、日本公衆衛生協会長賞が授与された。当日の表彰団体九団体の代表として本支部長がこれを受けたので報告します。



(なお、表彰状は日本女医学会愛知県支部事務局に保管)

医学部長就任にあたって

東邦大学精神科教授 柴田洋子

私も古くから本会員の一人でごさいます。以前は理事として直接お手伝いをしたこともございましたが、最近忙しさにまぎれてご無沙汰をしておりましたところ、突然執筆の依頼がございましたので、ご挨拶させていただきます。

母校を卒業して三十余年になりますが、さる七月から母校の医学部長に就任いたしました。私どもの大学はすでに創立五十余年、戦後男女共学になりました。今期はじめて同窓生の中から医学部長、病院長がそろって誕生いたしました。同窓生として母校をいかに発展させてゆくか、はなはだ責務の重さを痛感しております。まだ就任後、日も浅く、現状把握がようやくできてきた段階でございますが、一つの目標としてとりあげなければならぬのは、私立大学の特殊性を医学教育の中にどう関連させていくかということであり

ます。国立大学にくらべていかにも僅少な財政援助のもとで、複雑多岐にわたる医学の将来を見通した教育体制を完備することは、なかなか容易なことではありません。その中でそれぞれの私立大学がどのような独自性をもち得るか、これから充分に他大学のあり方についても勉強して

いきたいと考えております。

また、女性として私がこのようなポストにあることは、日本の現状としてはなほだまれなことは事実であります。私自身このような立場の中に女性の特権などというものは、まったくないと考えておりますので、ただひたすら職務のための前進あるのみです。しかしながら、同性、同業の方々からの励ましや共感、私にとりまして何よりも大きなささえになります。そういった意味で、こうして書かせていただくこともひとかたならず親近感を覚える次第でございます。

これから先も、多くの若き女性性が私たちのあとをついで医師になり、医学の色々な分野において自身の能力を発揮し、あるいは難しい目標にチャレンジして、新しい未来をきづいてゆかれることを切望してやみません。

終りにのぞみ、全会員の方々のご活躍をお祈りするとともに、ご交宜ご支援のほどをお願い申し上げます。



臨時評議員会議事録

日時 昭和五十四年二月十日(土)
場所 至誠会館 四階会議室
(東京都新宿区市谷河田町十九)

評議員会次第

会長挨拶

議長選出

議事録署名人選出

議題

一、定款について

閉会の辞

午後二時二十分、司会者小俣副会長より社団法人日本女医学会臨時評議員会を開会する挨拶あり。

評議員数 一一一名

出席者数(現在) 五八名

記名委任 二六名

白紙委任 八名

以上のとおり本日の評議員会は成立する旨、宣言する。

会長挨拶 三神美和

挨拶に先立ち静岡支部伊藤慶子、葛飾支部野村淑子両先生の傍聴希望があること、大阪九区支部綾仁伸子先生が、大阪六区支部の代理人として出席希望があるが、それぞれ認めるか問われたことに對し、いずれも承認された。

全会員が関心を持って、日本女医学会をより良くしようという意図のもとに行われたものである。最後まで検討していただきたいとの挨拶があった。

議長選出 議長 岸直枝

副議長 町静子
議事録署名人選出 以上二名
齊藤歌子、吉田茂子 山本杉

定款委員長挨拶 山本杉

経過報告の後、理事会案について審議を願うとの挨拶あり。松岡常任理事よりすでに配布済みの定款改正案の印刷物を下記のとおり訂正する旨、発表があった。

第二章 目的および事業(目的)第四条……社会的使命の遂行と福祉の増進……を国民福祉と「国民」を入れる。

定款施行規則第三章選挙第十四条一、理事の選出(1)地元立候補理事は、全国を十ブロックにわけ(別表一)各ブロックから各一名をブロックの代議員が単記、無記名投票により代議員会で選出する、として「五月十日まで本部に通知する」を抹消する。

議題 一、定款について (会の進め方として逐条審議し、最後に採決することにする) 修正案

第一章 総則 異議なし
第二章 目的および事業 異議なし
第三章 会員 異議なし
第四章 役員および職員

(会長、副会長、理事監事の選任)第十四条

理事および監事は、代議員会で選出し、総会で承認される。

二、会長および副会長は、代

議員会で選出された理事の中
から総会で出席正会員が選出
する。以上の項について代議
員制度が導入されたらという
前提で、種々審議されたが、
最後に審議することになった。
第五章 会議
(総会の権能)第二十三条2(2)
収支予算を総会で報告しなけ
ればならないとなっているが、
議事事項に入れなくてもよい
かとの質問に対し、代議員制
度になれば総会で報告すれば
よいのであると説明あり。

第二節 理事会 異議なし
第三節 代議員会
(代議員会の権能)第三十五条
「…つぎの事項を承認または決
議する」というこの「決議する
」ということが、代議員会が決
議したものは、理事会といえ
どもこれを変えることはでき
ないということを知っている
のか。また(4)「総会を開催す
る」とまのないうちに生じた緊
急を要する重要事項について
……」総会というのは決つて
いるので、この総会は、臨時
総会の意味なのかとの質問に
対し、定時総会、臨時総会も
ありうると説明あり。
(代議員会の開催)第三十六条二
代議員会は三分の二以上の出
席がなければ開催することが
できないとあるが、「代議員の
過半数が出席」にはならない
かとの案に予備代議員がいる
ので、このまま可決された。
第六章 資産および会計 異議なし
第七章 定款の変更ならびに解
散 異議なし
第八章 補則 異議なし
定款施行規則 異議なし
第一章 役員 異議なし
第二章 役員
(役員任期)第四条役員任期
は連続二期までとする。を
明文化するということは、基
本的人権の侵害につながる
いかとの問いに対し、検討の
結果「役員任期は再任を妨
げない」とし連続二期までと
するは削除することに決定さ
れた。
第三章 選挙
(別表一)全国ブロック中、東
京都は都内、都下、東京女子
医大を削除し、東京とするこ
とに決定された。
(役員選挙方法)第十四条二
会長、副会長は、代議員会で
選出された理事の中から総会
で出席正会員が単記、無記名
投票により選出する。のところ
を種々検討の結果改正案どおり
賛成挙手多数により了承する。
第四章 会計 異議なし
第五章 委員会 異議なし
第六章 国際連絡書記異議なし
以上で審議を終り(定款の変更)第三
十七条にもとづき投票する。

理事役員
定款改正案に賛成 一一名
" 反対 一〇名
白票 一名
評議員
定款改正案に賛成 三三名
" 反対 三名
白票 二名
以上のとおり定款改正案は可決され
た。
閉会の辞 小俣喜久子
長時間にわたり熱心な討議に感謝
し、当会の益々の前進を願うと挨拶
あり。午後六時五分散会。
議事録が正確である事を証するた
め議長議事録署名人の署名捺印をす
る。
昭和五十四年二月十日
議長 岸 直枝
議事録署名人 吉田茂子
" 齊藤歌子

臨時総会議事録

日時 昭和五十四年二月二十五日(日)
場所 京王プラザホテル
(東京都新宿区西新宿二一
二一)
臨時総会次第
会長挨拶
定款について
議長団選出
議事録署名人選出
議題
一、定款について
午後二時十六分、司会者久保田常
任理事より社団法人日本女医学会臨時
総会を開会する挨拶あり。
会員数 三、九七〇名
出席数(現在) 一一四名
記名委任 六九五名
白紙委任 三三二名
以上のとおり本日の臨時総会は成立
する旨宣言する。
会長挨拶 三神美和
・定款について考えてみようとい
うことで、一応アンケートをとつた
が、その結果は、定款そのものを
変えるという方は少なく、細則の
み変えるという方もあったが、そ
の数は全体の会員の数から見ても非
常に少なかった。理事会はこの機
会に少数の声を取り上げ、定款を
考えてみることを決め、定款委員
会を発足させ、種々検討し、今日
にいたつた。
・改正案のあらましは代議員制にし
るかの是非である。
・各位十分発表し、討議し、最後ま
で、よろしくお願ひしたいとの挨拶
があった。
定款について 山崎倫子
・定款について今までの経過並びに
定款が、改正された場合の説明があ
つた。
その主なるものは
1) 代議員制になり、いままでの
総会の権限を代議員会に委譲
する。
2) 理事の選出問題。
3) 会長、副会長の選出。

(会員が総会において行う)
・納得のいくまで、お考えいただき、
日本女医学会の将来のため判断を願
いたいと結ばれた。
議長団選出
長池博子、野村淑子、小林梅子
以上三名
議事録署名人
小暮美津子、瀬戸富喜代
以上二名
議題
一、定款について
・山本杉定款委員長より地方会員
は会費納入だけで何の恩恵もな
い。会員の中に会費未納者がい
る。やがて女医学会を脱会する。
以上の事から今度の定款を改正
するにいたつたという経過報告
があつた。
・代議員制のメリット、デメリット
について、また改正案を種々
検討する。
――この間約二時間――
・以上で討議を終り、議長団三名
を除き、現在出席者一三四名で
第三十七条にもとづき定款改正に
関する理事会案の賛否を投票
する。立会人を議長団の選出
により添田百枝、安倍マサ、藤
尾良枝各氏に依頼す。
投票の結果
定款改正案に賛成 八四名
定款改正案に不賛成 四六名
白紙 四名
したがって、賛成票三分二に達
せず定款改正案は否決された。

閉会の辞 久保田常任理事

長時間にわたり活発なご意向、ご意見をいただいたことを感謝し、臨時総会を閉会すると挨拶があった。午後五時四十八分散会。

議事録が正確である事を証するため議長団、議事録署名人の署名捺印をする。

昭和五十四年二月二十五日
議長 野村淑子
議事録署名人 小暮美津子 瀬戸富喜代

定時評議員会議事録

日時 昭和五十四年五月二十日(日)
場所 京王プラザホテル
(東京都新宿区西新宿二―二一―)

午前十時八分、司会者竹内理事より社団法人日本女医学会評議員会に際し、

- 評議員数 一一三名
- 出席数(開会時) 三三名
- 記名委任 十八名
- 白紙委任 九名

以上のとおり日本女医学会定款第二十七条の定足数に達し、評議員会が成立する旨宣言する。

開会の辞 小俣喜久子

ご多忙の中をご出席していただいたことを感謝し、和やかに評議員会を終始したのでご協力を願いたいと挨拶あり。

会長挨拶 三神美和

一、昭和五十二年一般会計収支決算の承認と昭和五十四年度事業計画案

及び予算案の審議を願う。

報告

一、会務報告 松岡宏子

別紙どおり報告

二、昭和五十三年特別会計報告 守安素女

年金

ルーペンゲン

国際女医学会記念事業基金

国際女医学会ファンド

それぞれ別紙どおり報告

議長団選出

遠藤ハナ

議事録署名人選出

田中あや、斎藤歌子

議事

第一号議案

一、昭和五十三年一般会計収支決算

別紙どおり説明 守安素女

二、剰余金処分案 承認 守安素女

別紙どおり説明 承認 守安素女

会計監査報告 添田百枝

昭和五十四年四月二十一日監査の結果適法かつ正確であることを認める報告あり。

第二号議案

昭和五十四年度事業計画案

学術部 稲葉幸子

吉岡弥生賞、研究助成、講演研修会について

事業部 柳瀬路子

日本女医の実態調査、公衆衛生、社会福祉への助成、へき地診療への助成、支部助成、年金、ルーペンゲン

等について

渉外部 佐野アヤ子

国際交流について

広報部 丸山実美

機関紙の発行について

以上承認

第三号議案

昭和五十四年度一般会計収支予算案 福永ひろ子

別紙どおり説明 承認

第四号議案

次期総会開催地について

三神美和

群馬県に決定

閉会の辞 山崎倫子

評議員会を無事終了でき、皆様のご協力に感謝し、この後開かれる総会においてもよろしく願いますとの挨拶あり。

午前十一時十六分閉会。

議事録が正確である事を証するため議長、議事録署名人の署名捺印をする。

昭和五十四年五月二十日

議長 遠藤ハナ

議事録署名人 田中あや 斎藤歌子

定時総会議事録

日時 昭和五十四年五月二十日(日)
場所 京王プラザホテル
(東京都新宿区西新宿二―二一―)

午後一時十六分、司会者久保田常任理事より、社団法人日本女医学会第二十四回定時総会を開会する挨拶あり。

会員数 三、九二八名

記名委任数 六九六名

白紙委任数 三四九名

出席数(開会の時) 六〇名

計 一、一〇五名

以上のとおり今日の総会は成立する旨宣言する。

開会の辞 小俣喜久子

全国各地からこの総会のため集まって下さったことのご感謝とご協力、ご支援を仰ぎなごやかに進めていきたいとの挨拶あり。

会長挨拶 三神美和

1)昭和五十三年一般会計収支決算の承認と昭和五十四年度事業計画案及び予算案の審議を願う。

2)役員改選については最後までご協力を願う。

3)昭和五十三年の本会の動きを振り返ってみると学術講演会を行ったこと、国際女医学会第十六回国際女医学会に日本から二題の演題が提出され、二〇七名の出席があった。国際女医学会継続五〇年会員として、三十二名の当会々員が表彰された。

4)吉岡弥生賞授賞者に平野京子氏決定。

5)国際女医学会記念事業基金運営委員会を発足し、基本的な問題を考えていきたい。

6)一昨年以来定款委員会の方々が検討された定款が二月の臨時総会で、否決されたこと、これはアンケートを全会員から取った時点で、改正を必要とされる方

が少なかつたが、あえて委員会を発足させたことに無理があつたのではないかと結ばれた。

物故者への黙祷

会員物故者二十四名に慎んで黙祷

報告

一、会務報告 松岡宏子

別紙どおり報告

二、昭和五十三年特別会計報告 守安素女

年金、ルーペンゲン、国際女医学会記念事業基金、国際女医学会ファンドをそれぞれ別紙どおり報告

三、国際連絡書記報告 佐野アヤ子

1)国際女医学会第十六回国際会議が昭和五十三年八月二十七日より九月二日まで、ベルリンにおいて五三カ国、一〇〇〇名余りの参加者があり、日本からは二〇七名であった。学術テーマは「マスメディアと医療」で九〇題の発表があり、日本から二題提出された。同時通訳に初めて日本語が採用された。国際女医学会継続五〇年会員として当会々員三十二名が表彰された。

2)女医の先駆者小伝が出版された。

3)一九七九年度国際女医学会々員二〇〇〇人分と寄付金を送金した。

4)昭和五十四年一月三日から二十一日まで中国親善訪問に十一名の参加があつた。

5)国際女医学会第十七回国際会議は、来年イギリスのバーミンガムで

開催され、学術テーマは「発展途上国及び先進国における医療の優先権について」である。

議長団選出

今野信子、小林梅子、三辺幸子 以上三名

議事録署名人選出

良田圭子、真鍋昌子 以上二名

議事

第一号議案

一、昭和五十二年度一般会計収支決算 守安素女 承認

別紙どおり説明 承認

二、剰余金処分案 守安素女 承認

別紙どおり説明 承認

会計監査報告 添田百枝

昭和五十四年四月二十一日監査の結果適法かつ正確であることを認める報告あり。

第二号議案

昭和五十四年度事業計画案

学術部 稲葉幸子

吉岡弥生賞、研究助成、講演研修会について

事業部 柳瀬路子

日本女医の実態調査、公衆衛生社会福祉への助成、へき地診療への助成、支部助成、年金、ルーペンタン等について

渉外部 佐野アヤ子

国際交流について

広報部 丸山芙美

機関紙の発行

以上承認

第三号議案

昭和五十四年度一般会計収支支算案 福永ひろ子 承認

別紙どおり説明 承認

第四号議案

次期総会開催地について 三神美和

群馬県に決定

選 群

定款第十五条の規定により現役員任期満了にともない役員立候補の届け出を行った結果、理事三十二名、監事三名、左記のとおり届け出あり。

鶴風会 尾中妙子、野口登志子、柳瀬路子、鈴木文子、小俣喜久子、斎藤イサヲ、稲葉幸子、清水友代、野沢良美、藤田親代、マッキンストリ千枝子

至誠会 久保田くら、佐藤千代子、松岡宏子、三神美和、森川みどり、山崎倫子、蓮井敏子、山本杉、佐野アヤ子、藤井侑子、川口正子、平瀬文子、

加多乃会 川那部喜美子、大原一枝、野呂幸枝、守安素女、竹内静香、福永ひろ子、丸山芙美、八木貞子、

その他 川島富久子

監事 鶴風会 添田百枝

加多乃会 山口三重

至誠会 今野信子

定款施行規則第二十二条によって無投票当選となる。

別室にて定款施行規則第十五条、

第十六条にもとづき会長、副会長、常任理事が選出され、総会の承認を得た。(アイウエオ順)

会長 三神美和

副会長 福永ひろ子、柳瀬路子、山崎倫子

常任理事 稲葉幸子、小俣喜久子、久保田くら、佐藤千代子、竹内静香、野沢良美、松岡宏子、丸山芙美、守安素女、八木貞子

理事 尾中妙子、大原一枝、川口正子、川島富久子、川那部喜美子、斎藤イサヲ、佐野アヤ子、清水友代、鈴木文子、野口登志子、野呂幸枝、蓮井敏子、平瀬文子、藤井侑子、藤田親代、マッキンストリ千枝子、森川みどり

Circular Letter No.55

March 21, 1979

国際連絡書記 佐野アヤ子(訳)

皆様ご存じのとおり、国際女医学会第十七回国際会議は、Birmingham, Englandにおいて Birmingham Metropole Hotel Complex において一九八〇年八月十七日より二十三日までの間開催されます。組織委員長: Miss Carin Williams 書記: Dr. Dorothy Ward 事務長: Mrs. Valerie Moss (第十七回国際会議の文通は、Mrs. Moss まで) Congress Secretariat:

Medical Women's Federation, U. K. Tavistock House North, Tavistock Square London WC1 H 9HX England Official Carrier: British Airways (なるべく Official Carrier を利用する) Scientific Program 学術議題 Medical Priorities in Developing Progressive and Established Countries (発展途上国及び先進国における医療の優先権について)

最初の Birmingham への案内は近日中送ります。Registration Form Hotel, 社交行事は一九七九年十月に配布されます。一九八〇年一〜一九八二年役員選挙役員候補者の提案を特別用紙にあなただの国的女医学会と相談の上書き入れて送って下さい。今度会議場が変わったために色々の書類がおくれています。国際女医学会の役員会がウインで九月の初めに行われますから八月十五日までにおそくとも送って下さい

議事録署名人 真鍋昌子 良田圭子

議長団 今野信子

議事録が正確である事を証するため議長団、議事録署名人の署名捺印をする。

昭和五十四年五月二十日

い。名前がわからない場合は、国を
書いて下さい。あなたの女医学会で名
前を提案する場合は本人の書いた承
諾を必要とす。

国際女医学会の Women Physi-
cians of The World 女医先駆者の伝
記は好評一〇〇〇部の中六〇〇部
売れ、四〇〇部残っていますから買
って下さい。お願いします。

吉岡弥生賞候補者

昭和55年吉岡弥生賞授賞の適格
者を本会理事または支部長宛にご
推せん下さるようお願い致します。
締め切り期日は本年末日迄に願
います。

なお次の書類を添えご推せんを
お願いします。

- 一、自筆履歴書(写真添付)
- 二、業績

- イ 医学に貢献した現会員
- ロ 社会に貢献した現会員

- 三、推せん理由

研究助成金候補者

昭和54年度研究助成金、助成該
当者(本会会員で若い研究者中助
成交付を希望される会員)を本会
事務局または支部長宛ご推せん下
さるようお願い致します。

締め切り期日は本年末日までに
願います。なお次の書類を添えご
推せんをお願いします。

- 一、自筆履歴書
- 二、現在の研究内容の概略

学術部

理事会議事録

日時 昭和五十四年三月二十四日

(土)午後三時十五分〜四時二
十五分

場所 至誠会館 四階会議室

出席 (敬称略)

三神、小俣、川那部、稲葉、久保
田、中川、野沢、福永、松岡、丸
山、森川、守安、柳瀬、尾中、川
口、川島、佐野、佐藤、竹内、藤
田、八木、山口、山本、添田、藤
欠席 (敬称略)

山崎、大西、大原、鈴木、野中、
野呂、橋本、蓮井、平瀬、福島、
藤井、白浜

庶務報告 松岡常任理事

2月24日 吉岡弥生賞審査会、常
任理事会、理事会を行
う

2月25日 臨時総会を京王プラザ
ホテルにて開催

2月28日 五十三年度新卒入会者
六十名に記念品のふろ
しきと日本女医の実態
調査報告書を発送する
臨時総会の結果報告を
全会員に発送する

3月2日 河野林先生葬儀に生花
を供す

3月8日 中華全国婦女連合会より新年の書
簡あり

国立婦人教育会館宿泊施設使用料
が千二百円に改訂された通知あり

森千鶴先生ご遺族より香典の礼状

と供養の品あり

会計報告 守安常任理事
2月分別紙のとおり 承認

議題
一、定時総会について
とき 昭和五十四年五月二十日(日)
午後一時

ところ 京王プラザホテル 四階
花
総会費 二千元
総会次第

一、会務報告
二、議題

(1)昭和五十三年度収支決算
(2)財産目録
(3)年金損益計算
(4)剰余金処分案

(5)昭和五十四年度事業計画案
(6)昭和五十四年度収支予算案
(7)次期総会、次々期総会開催
地

三、役員選挙
吉岡弥生賞授賞式
懇親会 午後五時 五階コンコ
ード 会費八千円

・次期(五十五年)総会開催地
は群馬県支部が了承
・次々期(五十六年)総会開催
地は兵庫県支部に依頼する

二、その他
(a)役員辞任届の提出を願う
(b)役員改選について
・立候補者メ切り後(三月二十
二日消印)一名郵送にて届出
があったが、挙手にて全員賛
成にて立候補を認める

・立候補の内訳は、鶴風会十一
名、加多乃会八名、至誠会十
二名、その他一名となり計三
十二名

(c)国際女医学会第十七回国際会議に
ついて 佐野連絡書記
日時 昭和五十五年八月十七
日〜二十三日

場所 英国
・学術議題 発展途上国、先進
国及び確立した国の医療の優
先権について
・女医の先駆者の小伝代金は、
国際ファンド会計に入れる

(d)公開講座開催のお知らせ
・主催 国立婦人教育会館
・講師 東北学院大学教授
久保田キヌ氏
・テーマ 社会と女
日時 昭和五十四年四月十日
場所 国立婦人教育会館

(e)国際児童年記念バッチ等の頒布
について
・希望者は申し込むこと
(f)万国博覧会協会の鈴木俊一氏の
都知事選出馬に際し、国際女医
会東京会議の時、お世話になっ
たお返しに陣中見舞をしたらど
うか
会長、副会長、会計、監事一任
(g)会計部より 守安常任理事
・昭和五十三年度の剰余金は、
約二百五十万円位になりそう
である。その分を昭和五十四
年度の事務経費に支出したい
・国際女医学会記念事業基金会

計報告は、別会計にする
・吉岡弥生賞会計を別会計にし
たことを総会時に説明する
(h)奨学助成を研究助成に科目訂正
する
(i)ルーペンタンについて
川島理事
・新製品の紹介とルーペンタン
セールのパンフレット配布に
ついて了承を受ける
(j)国際女医学会記念事業基金委
員会について
・委員名(敬称略)
久保田 松岡 竹内 福永
守安 川口 柳瀬 尾中 八
木 佐野 山本 野沢 藤井
森川 稲葉 佐藤
以上 久保田くら

日時 昭和五十四年四月二十八日

(土)午後三時二十分〜六時

場所 至誠会館 四階会議室

出席 (敬称略)
三神、小俣、山崎、稲葉、久保田
中川、野沢、福永、松岡、丸山、
森川、守安、柳瀬、尾中、川口、
川島、佐野、佐藤、鈴木、竹内、
蓮井、藤田、八木、山口、山本、
添田
欠席 (敬称略)
川那部、大西、大原、野中、野呂
橋本、平瀬、福島、藤井、白浜、
庶務報告 松岡常任理事

3月24日 常任理事会、理事会を
行う

3月27日 都知事候補の鈴木俊一
氏に陣中見舞をする

4月10日 中華人民共和国全国人
民代表大会代表団歓迎
会に添田監事出席

4月17日 山梨県支部会に三神会
長出席

4月21日 昭和五十三年会計監
査を行う

日本有職婦人クラブ全国連合会の
会長、事務局長の退任及び就任あ
いさつ状あり

新会長 高橋展子

新事務局長 福島みつ子

一九七八年中国婦人代表団歓迎報
告書 別紙あり

美濃部亮吉氏より東京都知事退任
あいさつ状あり

会計報告
3月分は昭和五十三年度収支決算
に含まれる

議題

一、定時総会について

(a) 昭和五十三年度会務報告及び事
業報告を別紙配布すのとお
り
順次検討し訂正する

(b) 昭和五十三年度一般会計収支決
算及び特別会計報告 承認

(c) 会計監査の結果、適法かつ正確
である旨添田監事より報告あり

(d) 昭和五十四年度事業計画案及び
一般会計収支予算案 承認

(e) 第二十四回 日本女医学会定時総
会次第

開会の辞 久保田くら
小俣喜久子
三神 美和

会長挨拶 物故者への黙禱
報告

一、会務報告 松岡宏子
二、昭和五十三年度特別会計
報告 守安素女

・年金
・ルーペンゲン
・国際女医学会記念事業
基金
・国際女医学会ファン
ド

三、国際連絡書記報告 佐野アヤ子

議長団選出
議事録署名人選出
議事

第一号議案
一、昭和五十三年度一般会計
収支決算 守安素女

二、剰余金処分案 〃

会計監査報告 添田百枝

第二号議案 昭和五十四年度
事業計画案

学術部 稲葉幸子
事業部 柳瀬路子
渉外部 佐野アヤ子
広報部 丸山芙実

第三号議案 昭和五十四年度
一般会計収支予算案
福永ひろ子

第四号議案 次期総会開催地
について 三神美和

選挙 山崎倫子
閉会の辞

吉岡弥生賞授賞
日本女医学会優功賞授賞

(f) 評議員会次第
会長挨拶 司会 竹内静香
三神美和

報告

一、会務報告 松岡宏子
二、昭和五十三年度特別会計
報告 守安素女

・年金
・ルーペンゲン
・国際女医学会記念事業
基金
・国際女医学会ファン
ド

議長団選出
議事録署名人選出
議事

第一号議案
一、昭和五十三年度一般会計
収支決算 守安素女

二、剰余金処分案 〃

会計監査報告 添田百枝

第二号議案 昭和五十四年度
事業計画案

学術部 稲葉幸子
事業部 柳瀬路子
渉外部 佐野アヤ子
広報部 丸山芙実

第三号議案 昭和五十四年度
一般会計収支予算案
福永ひろ子

第四号議案 次期総会開催地
について 三神美和

(g) 役員選挙後理事会を開いている
間に「医学の進歩」に関しての
映画を万有製薬(株)に依頼する、

またコーヒープレイク等も用意
する

(h) 次々期総会開催を依頼していた
兵庫支部から辞退届があった
二、その他

(a) 中川常任理事より日本女医学会再
発足らしい役員をしてきたが、
今回で退任するとの挨拶あり

(b) 理事役員会の旅費交通費の支給
を会費納入をみてからとし、し
ばらく延期する

(c) 次回の常任理事会、理事会は、
六月二十三日
傍聴者(敬称略)
伊藤慶子(静岡) 以上 松岡 宏子

日時 昭和五十四年六月二十三日
(f) 午後三時十五分～六時三
十分

場所 至誠会館 四階会議室

出席(敬称略)
三神、福永、柳瀬、山崎、稲葉、
小俣、久保田、佐藤、竹内、野沢、
松岡、丸山、守安、八木、尾中、
川口、川島、川那部、斉藤、佐野、
清水、蓮井、平瀬、藤井、藤田、
マッキンストリ、森川、山本、山
口

欠席(敬称略)
大原、鈴木、野口、野呂、今野、
添田

会長挨拶 三神会長

新役員として三年間一緒に日本女
医学会のため、協力して平和な会と
してやっていきたいと挨拶された。

自己紹介 松岡常任理事

席務報告

4月28日 常任理事会及び理事会
を行う

5月4日 評議員会及び定時総会
開催通知発送

5月7日 日本女医学会誌、会務報
告、役員立候補者略歴
一覧表、ルーペンゲン
パンフレットを発送

5月20日 評議員会、総会を京王
プラザホテルで行う

5月29日 日本女医学会費十年滞納
者に会費納入依頼、な
お所属支部長に通知す
学位取得者調査及び医
師国家試験合格者名を
各大学へ依頼する

6月7日 古本育子先生、藤田百合子先生ご
遺族より香典の礼状あり

会計報告 守安常任理事

四月、五月分別紙どおり 承認

今回より理事会議事録を発送する
ことを中止し、会議内容を自分で
記入すること

国際連絡書記報告 佐野理事

(一) 国際女医学会第十七回国際会議に
ついて
開催日 一九八〇年八月十七日、
二十三日

場所 イギリス、バーミンガム

演題 発展途上国、先進国及
び確立した国の医療の
優先権について

演題〆切り 七月末日 連絡書
記まで

(二) 国際女医会発行の女医先駆者小伝を注文希望の方は事務局まで申し出てほしい一冊六〇〇〇円
 (三) 国際児童年刊に於いてフリーピンで七月二日、六日、会議あり
 (四) ドイツ女医会より産婦人科学会の招待あり 詳細は連絡書記への招待あり

議題

- 一、理事の役務分担の件(敬称略)
 - 庶務部 久保田、松岡、尾中、清水、藤田
 - 水、藤田
 - 森川
 - 事業部 稲葉、丸山、川島、斎藤
 - 野口
 - 学術部 小俣、大原、野呂、藤井
 - 広報部 野沢、八木、川那部、山本
 - 渉外部 竹内、佐野、鈴木、マツ
 - キンストリ、平瀬
- 理事会議題を毎月十日までに庶務部に提出する
- 国際連絡書記選出
 - 出席理事で投票の結果、山崎倫子氏を国際連絡書記に決定
- 国際女医会副会長候補について
 - 佐野アヤ子先生を推薦する
- 二、各種委員会について
 - 年金委員会
 - 吉岡弥生賞審査委員会に於いて近期中に三神会長ならび荒川先生で懇談を願うことにした
- 三、新執行部のあり方について
 - 会費凍結の件
 - 定款施行規則を再検討したらどうか支部会等に会長、副会長が出席するようにする

四、その他

- (一) 校債一〇〇〇万(吉岡弥生賞基金)の件
 - 三神会長と荒川先生で校債についての話をしもらう
- (二) 常任理事会、理事会開催日
 - 7月28日 常任理事会
 - 8月 休み
 - 9月29日 常任理事会、理事会
 - 10月27日 常任理事会
 - 11月17日 常任理事会、理事会
 - 12月22日 常任理事会
 - 1月26日 常任理事会、理事会
 - 2月23日 常任理事会
 - 3月22日 常任理事会、理事会
 - 4月19日 常任理事会、理事会
 - 5月 休み
- (三) エーゲ海とバリ、ローマの旅
 - 日本通運(株)
- (四) エイボン女性年度賞について
 - 推薦する方がいたら事務局へ
- (五) チャリティー乗合い大会について
 - (六) 日本文化協会光のプレゼントへ一万円寄付する
- (七) 国際児童年記「国際理解のための婦人セミナー」の開催について
- (八) 庶務部より
 - 会員名簿の発行
 - 役員の旅費交通費と各部会費は会費納入をみてから
 - 職員勤務規定をつくる
 - 職員夏期賞与について
 - 以上 松岡 宏子

会員動静

- 支部長変更新支部長(敬称略)
- 大阪六支部長 小竹 充子
 - 墨田区支部長 相原 静江
 - 岡山県支部長 井口与志子
 - 葛飾区支部長 黒瀬千鶴子
 - 中野区支部長 高木 松江
- 会員物故者(敬称略)
- 河野林(台東) 古本育子(徳島)
 - 谷愛子(徳島) 赤嶺房(大分) 藤田百合子(京都) 代田幸江(広島)
- 入会々員(敬称略)
- 小河雪江(静岡) 山本節(山口)
 - 大月富子(港) 戸田操(兵庫) 武田浩枝(昭和五十三年卒神戸大)
 - 大川弥生(昭和五十三年卒久留米大)
 - 佐々佐智子(徳島) 岡本敏子(静岡) 相原静江(墨田)
- 新卒入会々員(敬称略)
- 連美知子(兵庫医大) 村上千佳子(三重大)
- 退会々員(敬称略)
- 永野あき(豊島) 原田迪子(広島)
 - 伊藤圭子(文京) 前田友代(兵庫)
 - 志田静(豊島) 酒井まつ(茨城)
 - 瀬戸万寿子(北海道) 今京子(北海道)
 - 五味京子(秋田) 渡辺英子(福島)
 - 市川紀美恵(群馬) 岡田智志穂(千葉) 三浦澄子(江東)
 - 小林礼子(杉並) 吉田利子(都下)
 - 小坂ふよ(都下) 小林淑(神奈川)
 - 加藤志げ子(愛知) 橋本百合子(福井)
 - 中島文子(石川) 新田治子(和歌山)
 - 内坂フミ子(大阪10)
 - 女順重子(大阪4) 松繁範子(京都)
 - 原悦子(岡山) 小島徳子(山

編集後記

新しい広報部による最初の会誌第七十九号がお陰様で無事発行できましたこと、本当にうれしく心から感謝申し上げます。

六月二十三日初めての理事会が開かれ各部の担当が決まりました。新しいメンバーにより誕生した広報部は急遽原稿依頼にとりかかりました。原稿入手後初校、二校、三校を経て会員の皆様方のお手元に届きますのは八月半ばすぎとなりますので何分よろしくご容赦の程、お願い申し上げます。なおご多忙中にもかかわらず、早速原稿をお送り頂きました諸先生方に厚くお礼申し上げます。

今回は新執行部の紹介、抱負などの他、愛知県支部長森川みどり先生の日本公衆衛生協会賞授賞、柴田洋子先生の東邦大学医学部長ご就任など大変誇らしく明るいニュースを会員の皆様にお届けできますことは何よりもうれしく会をますますの発展がうかがわれます。

会員相互間の連絡を密にし、迅速な情報伝達、また会誌を発行期日に間に合うよう企画編集してまいりたいなど本来の広報部の使命を全う致したいものと七月広報部会を開きました節、次のような点につき話し合いを致しましたので皆様方のご理解とご協力を切にお願いいたします。

- (1) 原稿締め切り期日は厳守して頂きたいこと。(原稿は印刷に依頼してから発送まで約一カ月かかります。発行の前月の十日を締め切り期日と致します。)
- (2) 原稿依頼申しあげても、どうしても都合悪い場合お返事はできるだけ早く頂きたいこと。(別の先生にお願いする都合もありますので。)
- (3) ご投稿頂きましても当号必ず掲載できない事もありますので予めご諒承ください。(広報部としてその号の編集企画目的以外の場合ページの都合上後の号になる場合がございます。)
- (4) 会誌は会員のための声の広場でもありますが皆様からの自由なご投稿を歓迎いたしております。以上いろいろお願い申し上げますが少しでも皆様方のご期待に添うべく努力してまいりたいと同張り切っております。どうぞご指導ご協力を切にお願い申し上げます。(野沢記)

昭和五十四年七月二十日 印刷
 昭和五十四年七月二十五日 発行
 編集人 野 沢 良 美
 発行人 日 本 女 医 会
 発行所 東京都新宿区
 市谷河田町19
 社団法人 日 本 女 医 会
 TEL (31)〇九六八
 東京都文京区本駒込
 一七七一十五
 印刷所 株式会社 北 斗 社